

シートベルト等非着用者の致死率は約15倍

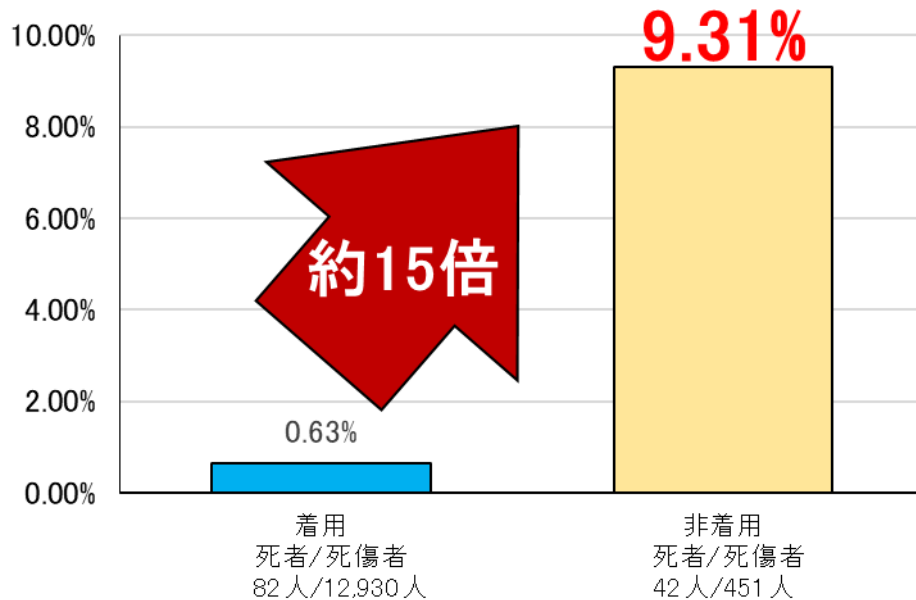
(チャイルドシート含む)

《 5 年間（R3～R7） 》

過去5年間の自動車乗車中の死者のうち、シートベルト等（チャイルドシート含む）非着用者は3割強を占め、重傷・軽傷者と比較すると非着用率が高い状況です。

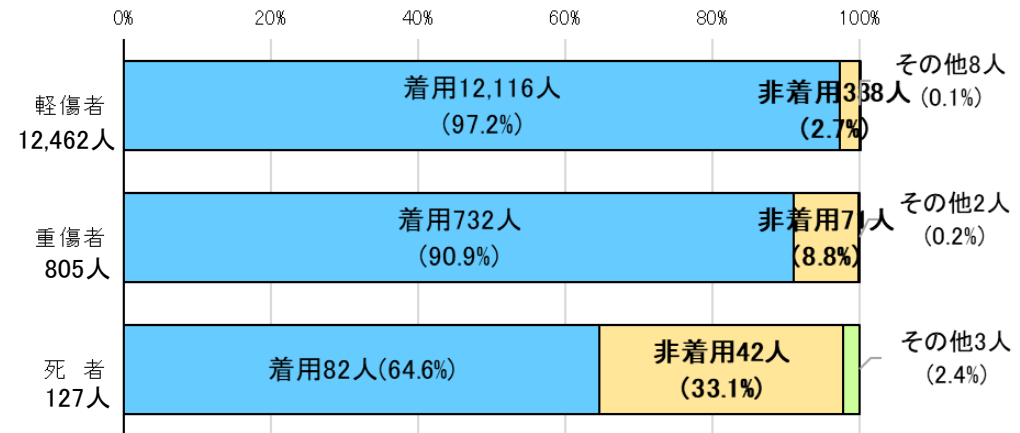
シートベルト等非着用者の致死率は9.31%で、着用者（0.63%）の約15倍！

シートベルト等使用別致死率比較



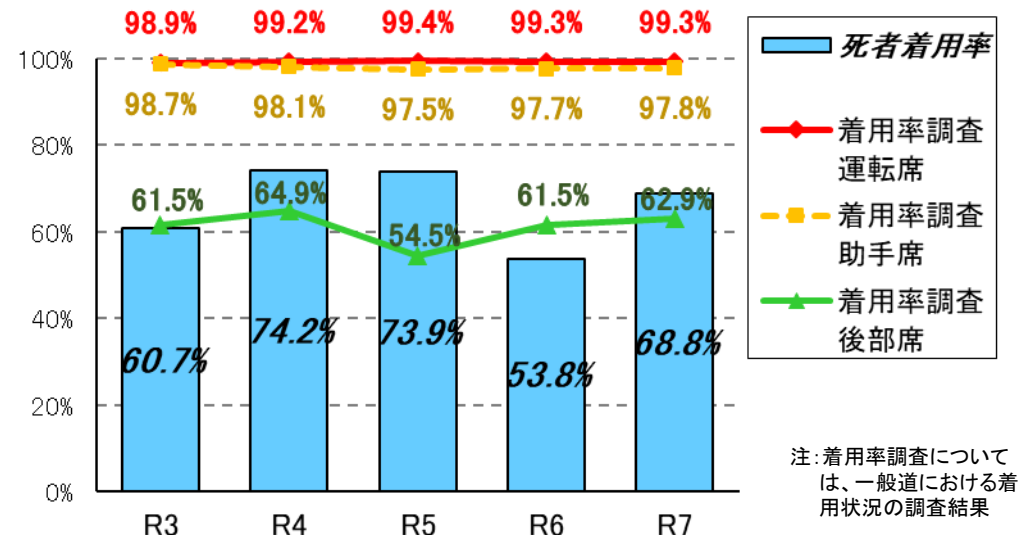
注：適用除外及び着用不明を除く。

被害程度別シートベルト等着用状況



注：その他は適用除外及び着用不明。

死者のシートベルト着用状況・着用調査結果推移



注：着用率調査については、一般道における着用状況の調査結果

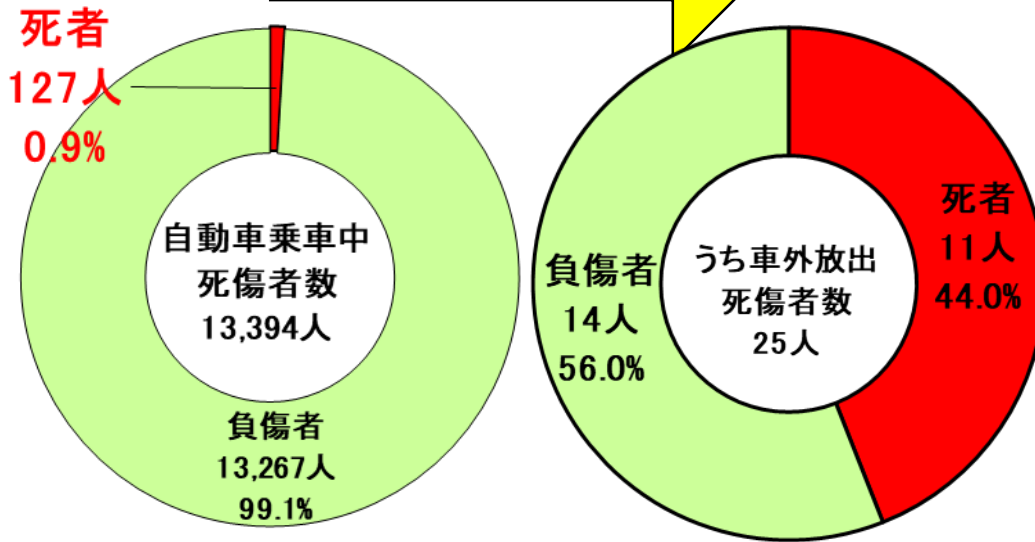
注：適用除外及び着用不明を除く。

車外放出による致死率は約49倍

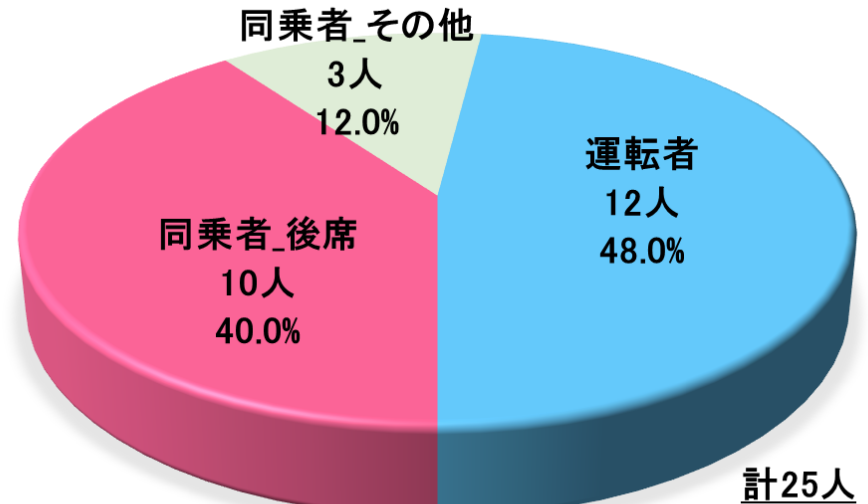
《 5年間（R3～R7） 》

自動車乗車中死傷者と車外放出による死傷者の致死率比較

車外放出の場合の致死率は
約49倍！



車外放出による死傷者の乗車位置



注：同乗者_その他とは、バスや荷台等の同乗者をいう。



～ 車外放出事故の危険性 ～

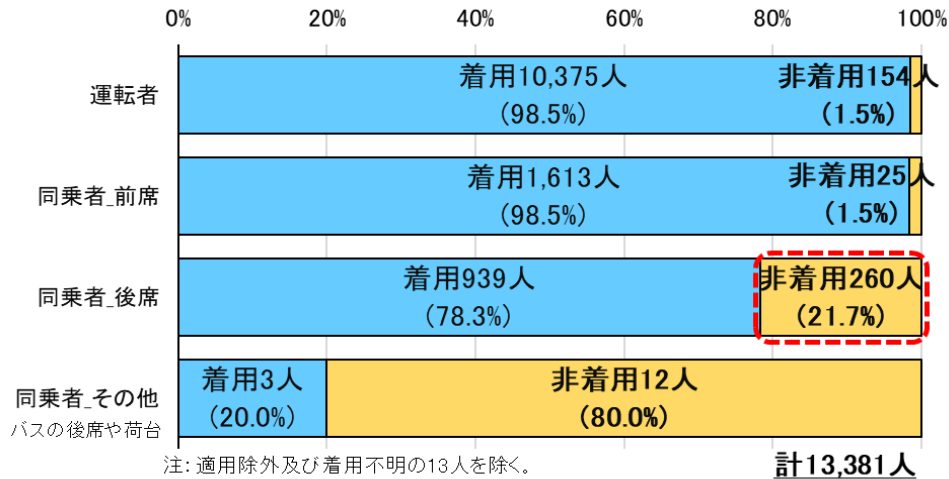
自動車乗車中全体の致死率が0.9%であるのに対し、車外放出による致死率は44.0%と約49倍高い状況であり、危険な車外放出を防ぐ為には、シートベルト等の着用の重要性が伺えます。

また、車外放出され死傷した方の乗車位置では、運転者の次に後席同乗者が多い状況であり、全席でのシートベルト着用の重要性が伺えます。

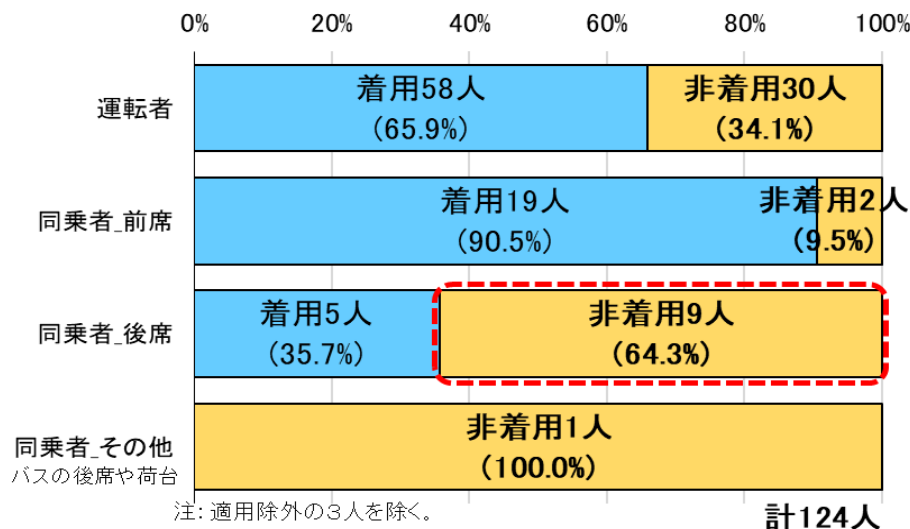
後席同乗者中死者の6割強がシートベルト等非着用

《5年間（R3～R7）》

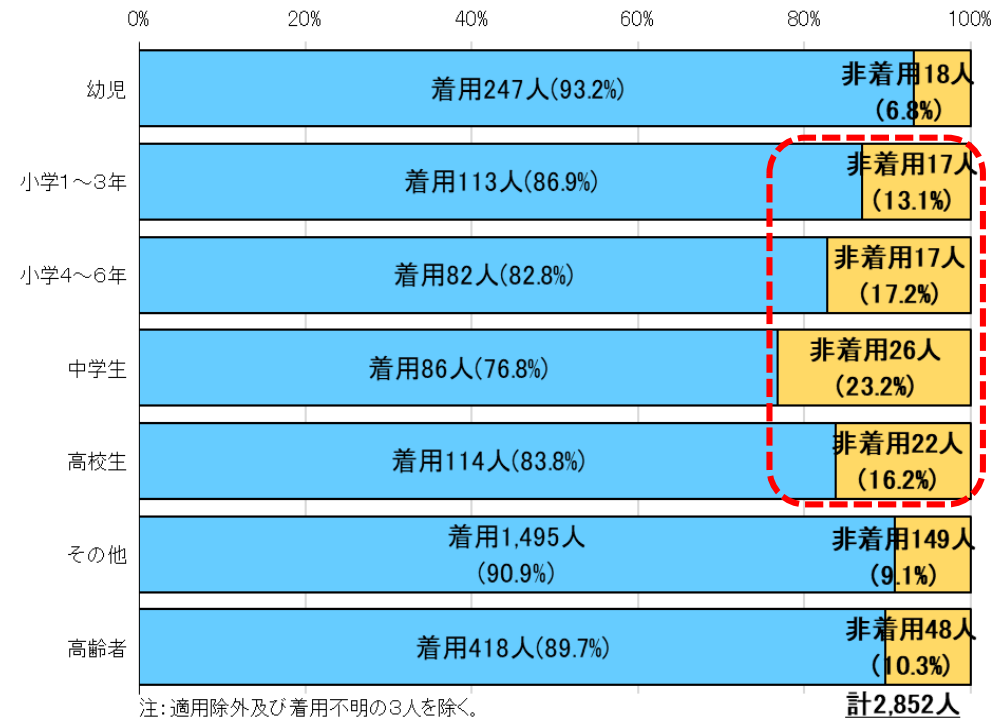
死傷者のシートベルト等着用状況



うち死者のシートベルト等着用状況



自動車同乗中死傷者のシートベルト等着用状況



自動車乗車中の死傷者のうち後部席同乗者は非着用者が多く、特に死者では、後席同乗者は非着用者が6割強を占めています。

また、同乗者の死傷者のうち、小学生から高校生は非着用者が多く、特に中学生は非着用者が23.2%と高い状況です。



後部座席でシートベルトをしないと

3つの大きな危険が…



1 自分自身に大きな損傷を負う危険

事故の衝撃は想像以上に大きく、後席に座っていても、前席のシート、天井やドア等にたたきつけられ、頭部や胸部に大きな損傷を負う危険性があります。

2 車外放出の危険

着用時に比べ、車外に放出される危険性が高くなるとともに、車外放出により道路にたたきつけられる等し、重大な損傷を負う危険性があります。

3 前席乗車者への危険

事故の衝撃で、後席に座っている人が前方に飛び出すことにより、前席の運転者や同乗者がシートとエアバックやハンドルに挟まれて大きな損傷を負う危険性もあります。